



新たな100年への一步を
踏み出したあすか製薬は
女性の活躍を支えながら
さらなる発展を遂げていきます

代表取締役社長 山口 隆

100周年を迎えて

創立以来の変わらぬ姿勢が企業文化として定着し、今日の支えに。

はじめに、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方およびご家族の皆さまに心よりお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

2020年、あすか製薬は創立100周年を迎えました。患者さんや医療関係者の皆さまに、1世紀にわたり、私たちの医療用医薬品をお使いいただいておりますことを心より感謝申し上げます。

創立当時の社名は「帝国社臓器薬研究所」といい、いわゆる研究開発型ベンチャー企業として、アカデミズムとテ

クノロジーに立脚し、自分たちにしかできない製品の開発を目指していました。1922年には、今もなお当社の基盤製品である甲状腺機能低下症治療剤「チラーゼン」を世に送り出しました。こうした独創的な技術力が評価、継承され、非常に重要な企業文化となって、今日のあすか製薬を支えています。



存在感のあるスペシャリティファーマを目指して

あすか製薬のDNAを継承する重点3領域に注力。

あすか製薬は、内科、産婦人科、泌尿器科の重点3領域に特化し、存在感のあるスペシャリティファーマを目指して競争力の強化に取り組んでいます。創立当初のベンチャー精神を忘れず、たとえ小さな市場でも必要性の高い医薬品に挑み続けること。ホルモン製剤のパイオニアとして、そこにメディカルニーズがある限り、価値ある医薬品を届けること。これらの使命感こそが、あすか製薬のDNAと言えます。

産婦人科領域についても決して大きな市場ではないため、その市場性を理由にビジネスを縮小する製薬企業もありましたが、当社は継続してこの領域を強化する道を歩み、現在では医療関係者の方々との信頼関係も厚く、積極的に

女性のQOL (Quality Of Life : 生活の質) 向上を図る医薬品や情報を提供し、新たなニーズにも応えられるまでに成長を遂げています。

当社のDNAは、創業にかかわる研究開発活動だけでなく、確かな生産技術による医薬品の安定供給から、医療関係者に対する高度かつ正確な情報提供まで、バリューチェーン全体に根づいています。手がける企業が少ない分野であるだけに、一層の責任を自覚して、患者さんのニーズと医療関係者からの信頼に応えることにより成長を重ね、100年の歴史を刻んできました。今後も、ニーズと信頼に応え続けることは、私たちの競争力向上につながるものであり、今後も尽力していく所存です。

